

第6章 地区取組方針



【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

第6章 地区別取組方針

1 地区別取組方針の位置付け

前期においては、区全体の将来像を実現するため、各地区が果たすべき役割を示した地区別の取組方針を設定しています。本計画では、前期に設定した地区別取組方針及び江東区都市計画マスタープラン 2022 における地区別まちづくり方針を踏まえるとともに、東京 2020 大会を契機に整備された競技場や大規模な開発の動向等を反映し、各地区の取組方針を見直すものとします。



本計画における地区の区分



コラム 07

江東区の水辺形成史



図 1



図 2



図 3

■ 江戸時代初期

江東区の面積は今では約 43km²と 23 区で 6 番目に大きい面積ですが、そのほとんどが、埋め立てで出来ています。

江戸時代初期（室町時代末）には、今の亀戸に当たる、亀島等の小島が点在するだけでした。（図 1）

■ 江戸時代後期

江戸時代には埋め立てと同時に、区内河川の開削が進み、まちが形成され、江東区役所あたりも、陸地となりました。（図 2）

明治初期にかけては、多くの文人墨客が住み、独特の文化が生まれました。また、川沿いの風光明媚な景色や祭礼等の年中行事を中心として、江戸市民の行楽地が区内各所にありました。

■ 現代

関東大震災後には、震災復興事業で区画整理され、現在のまちなみの骨格ができました。

また、戦後の高度経済成長期にかけては、地下水の汲み上げにより地盤沈下が進行し、その都度、護岸の高さを確保するため、かさ上げ工事を行いました。

その後、さらに沖合の埋め立てが進み、江戸時代初期には小島でしかなかった江東区は、今では東京ゲートブリッジでつながる海の森まで区域を拡大し、発展してきました。（図 3）

【出典】江東区史

まちの記憶と未来展（江東区）

2 深川北部地区

(1) 地区特性

① 地域概況

令和6年1月1日現在、人口は86,742人、人口密度は233.4人/haです。

地区内には、隅田川、小名木川、大横川、横十間川、仙台堀川といった河川が縦横に流れています。また、江戸初期からの伝統文化を受け継ぐ数多くの社寺や水運都市の面影を残す橋梁等、歴史的資源を有しています。都立猿江恩賜公園や都立木場公園はかつての貯木場跡地に整備された公園で、まとまったみどりが存在しています。

緑被率、緑視率は、ともに6地区中6番目で、最も低くなっています。

〈深川北部地区のみどりの現状〉

		江東区全域	深川北部地区
緑被率		21.01%	14.48% (6地区中6番目)
緑視率		17.2%	11.7% (6地区中6番目)
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	298箇所	52箇所
	面積	515.1ha	41.7ha
ポケットエコスペース		52箇所	8箇所
緑・自然の満足度		63.2%	63.9% (61人中39人)

② 地区の将来的な動向 (「江東区都市計画マスタープラン2022」地区別まちづくり方針におけるみどりの位置付け)

		みどりに関連する主な位置付け
拠点の方針	住吉都市核	・横十間川、小名木川、大横川等の水辺や都立猿江恩賜公園の豊かな緑、スカイツリーの景観を活かし、ウォーカブルな歩行空間を創出する等、水辺を中心としたにぎわいのある拠点の形成を目指します。
	清澄白河都市核	・都立清澄庭園、寺社等の地域資源を活用し、歴史と文化、アートや水辺と緑を活かした景観づくりやリノベーション等により、憩い空間となるサードプレイスが立地し、回遊性と魅力を高めるまちづくりを目指します。
	新駅拠点 (仮称)千石駅	・仙台堀川公園、横十間川親水公園、都立木場公園へのアクセス性を活かし、ウォーカブルな空間の形成による沿道商業の活性化やまちなかの緑の創出等により、回遊性の向上と歩行者ネットワークの強化を目指します。
エリアまちづくりの方向性	猿江恩賜公園周辺エリア	・都立猿江恩賜公園の豊かな緑や水辺を活かし、スポーツや防災活動に資する空間を形成する等、快適で安全なまちづくりを目指します。
	新大橋一・二丁目周辺エリア	・隅田川沿いの既存の親水施設を活かし、スーパー堤防の整備を東京都と連携して進める等、水辺エリアの快適性と安全性の向上を目指します。
	三好三丁目・平野三丁目エリア	・個性的なカフェと公園を連続的につなぐ歩道空間を形成する等、回遊性の高いまちづくりを目指します。

※みどりと関連の深い拠点・エリアを抜粋

(2) 地区の方針

- ◆ 公園、水辺、社寺等の既存のみどりを保全するとともに、民有地における緑化を推進していきます。また、大規模開発等のまちづくり事業と連携し、地域特性にあった新たなみどりを創出していきます。
- ◆ 都立清澄庭園周辺地域、社寺が集積している地域、水運都市としての面影を残す地域等では、歴史・文化的資源を活用し、みどりと一体となった市街地の緑化や景観形成を進め、地区への愛着の醸成やにぎわい等を創出していきます。
- ◆ 縦横に流れる河川や大規模な公園等を活用し、環境、生物多様性、防災等をはじめとするみどりの多様な機能が発揮できるみどりのネットワークを形成していきます

下町風情が残るみどりと新たな芸術・文化が息づくまち

万年橋

周辺との一体的な空間整備を進め、水運が盛んだった頃の面影を感じられるまちなみづくりを進めていきます。

大横川

桜並木や水辺と一体となった沿川の緑化を進め、水辺を活かしたみどりのネットワークを形成していきます。

都立猿江恩賜公園

都立猿江恩賜公園の豊かな緑や水辺を活かし、スポーツや防災活動に資する空間を形成する等、快適で安全なまちづくりを進めていきます。

小名木川

かつての塩の道としての歴史を踏まえ、水辺を活かしたみどりのネットワークを形成していきます。



大横川

【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

新大橋一・二丁目

周辺エリア

森下地域核

住吉都市核

猿江恩賜公園 周辺エリア



都立清澄庭園

都立清澄庭園の歴史あるみどりを活用するとともに、庭園周辺でのアートや水辺等を活かした景観づくり等により、回遊性と魅力を高めるまちづくりを進めていきます。



福富川公園

福富川公園

かつての堀割の面影や木場の文化を伝える場、水との触れ合いの場として保全し、地区の愛着や誇りの醸成の場として活かしていきます。

都立木場公園

区民まつりをはじめとする大型イベント等を実施し、にぎわいづくりやC I Gの普及啓発を進めていきます。

凡例

○ 公共施設の緑化（屋上・壁面）	● 保護樹木・保護樹林	★ 桜の見所	■ 教育文化施設	■ 公園・緑地
○ 民間企業の緑化（屋上・壁面）	■ 街路樹	★ 紅葉の見所	■ 官公庁施設	■ 児童遊園
○ 校庭芝生化	■ 水辺・潮風の散歩道等		■ スポーツ・興行施設	■ 河川・運河
○ ポケットエコスペース・ピオトープ	■ 防災船着場		■ 避難場所	
○ コミュニティガーデン				
○ 農体験の場				
○ 住宅団地のオープンスペース				

「江東区都市計画マスタープラン 2022」拠点の方針、エリアまちづくりの方向性

深川北部地区における取組方針図

3 深川南部地区

(1) 地区特性

① 地域概況

令和6年1月1日現在、人口は77,162人、人口密度は187.4人/haです。

地区内には、隅田川、大横川等の河川や堀割の面影を残す古石場川親水公園、横十間川親水公園、江戸の木場の風景を感じられる木場親水公園といった親水空間が豊富です。また、都立木場公園には、まとまったみどりが存在しています。富岡八幡宮及び深川不動堂が位置する深川界隈は江戸町人文化の中心地として栄え、現在も当時の面影を残しています。

緑被率、緑視率は、ともに6地区中3番目となっています。

〈深川南部地区のみどりの現状〉

		江東区全域	深川南部地区
緑被率		21.01%	17.64% (6地区中3番目)
緑視率		17.2%	15.0% (6地区中3番目)
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	298箇所	49箇所
	面積	515.1ha	30.8ha
ポケットエコスペース		52箇所	7箇所
緑・自然の満足度		63.2%	70.9% (55人中39人)

② 地区の将来的な動向 (「江東区都市計画マスタープラン2022」地区別まちづくり方針におけるみどりの位置付け)

		みどりに関連する主な位置付け
拠点の方針	門前仲町・越中島都市核	・ 深川地域を主導する拠点の形成を目指し、永代通りや清澄通りの沿道空間のにぎわいの創出や、隅田川や大横川の水辺空間の親水性を活用する等、区内外の人を惹きつける交流機能等の充実を図ります。 ・ 深川不動堂や富岡八幡宮等の歴史・文化資源や水辺と緑を活用し、周辺エリアとの連携により回遊性を向上させる等、都市型観光拠点の強化を目指します。
	木場都市核	・ 官民が連携して木場公園や大型商業施設を横断的に活用し、防災機能を強化する等、災害時に被害者を安全かつ的確に誘導できる防災都市づくりを目指します。
エリアまちづくりの方向性	東陽一丁目エリア	・ 未供用の公有地を適正に集約、活用し、地域特性に応じた都市計画公園を整備する等、防災性の高い都市の形成を目指します。

※みどりと関連の深い拠点・エリアを抜粋

(2) 地区の方針

- ◆ 富岡八幡宮、深川不動堂等の歴史・文化的資源を活用し、みどりと一体となった市街地の緑化や景観形成を進めるとともに、区民や事業者等と連携し、大横川の桜や大規模な公園を活用したイベント等によるにぎわいづくりを進めることで、地区への愛着の醸成を図っていきます。
- ◆ 縦横に流れる河川、親水公園、富岡八幡宮等の社寺等のみどりを保全・維持していくとともに、小学校、区民、事業者と連携し、ポケットエコスペースや事業者のビオトープ等を活用することで、環境、生物多様性等をはじめとするみどりの多様な機能が発揮できるみどりのネットワークを形成していきます。
- ◆ 「江東区みどりの基本計画推進会議部会」では、東陽周辺をモデル地区として、みどりを活用した地域課題の解決に向けた多様な主体による協働の取組を行いました。主なテーマとして調査・検討を行った「花を使ったまちの景観づくり」、「みどりの魅力発見に向けたマップやHPづくり」、「みどりの連続性」の取組成果を有効活用するとともに、多様な主体による協働の取組の他地区への展開を検討していきます。

伝統と未来が織り成すみどり豊かなまち

隅田川

東京都と連携してかわてらす事業等による水辺を活かしたにぎわいづくりを進めていきます。

古石場川親水公園

水辺と一体となった緑化により、堀割の面影を残した空間づくりを進めていきます。



隅田川【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

横十間川親水公園・田んぼの学校

ウォーキングやランニング、自然観察、貴重な農体験等の場としての快適な環境づくりを進めていきます。



田んぼの学校

富岡八幡宮・深川不動堂及び門前仲町周辺

歴史的な緑地を保全するとともに、周辺の市街地との一体的なみどりのあるまちなみを形成していきます。

門前仲町・越中島都市核

都立木場公園

木場駅

永代通り

三ツ目通り

大横川

大横川南支川

東陽一丁目エリア

東陽町駅

東陽都市核

四ツ目通り

東陽五丁目

東陽六丁目

東陽七丁目

東陽八丁目

東陽九丁目

東陽十丁目

東陽十一丁目

東陽十二丁目

東陽十三丁目

東陽十四丁目

東陽十五丁目

東陽十六丁目

東陽十七丁目

東陽十八丁目

東陽十九丁目

東陽二十丁目

東陽二十一丁目

東陽二十二丁目

東陽二十三丁目

東陽二十四丁目

東陽二十五丁目

東陽二十六丁目

東陽二十七丁目

東陽二十八丁目

東陽二十九丁目

東陽三十丁目

東陽三十一丁目

東陽三十二丁目

東陽三十三丁目

東陽三十四丁目

東陽三十五丁目

東陽三十六丁目

東陽三十七丁目

東陽三十八丁目

東陽三十九丁目

東陽四十丁目

東陽四十一丁目

東陽四十二丁目

東陽四十三丁目

東陽四十四丁目

東陽四十五丁目

東陽四十六丁目

東陽四十七丁目

東陽四十八丁目

東陽四十九丁目

東陽五十丁目

東陽五十一丁目

東陽五十二丁目

東陽五十三丁目

東陽五十四丁目

東陽五十五丁目

東陽五十六丁目

東陽五十七丁目

東陽五十八丁目

東陽五十九丁目

東陽六十丁目

東陽六十一丁目

東陽六十二丁目

東陽六十三丁目

東陽六十四丁目

東陽六十五丁目

東陽六十六丁目

東陽六十七丁目

東陽六十八丁目

東陽六十九丁目

東陽七十丁目

東陽七十一丁目

東陽七十二丁目

東陽七十三丁目

東陽七十四丁目

東陽七十五丁目

東陽七十六丁目

東陽七十七丁目

東陽七十八丁目

東陽七十九丁目

東陽八十丁目

東陽八十一丁目

東陽八十二丁目

東陽八十三丁目

東陽八十四丁目

東陽八十五丁目

東陽八十六丁目

東陽八十七丁目

東陽八十八丁目

東陽八十九丁目

東陽九十丁目

東陽九十一丁目

東陽九十二丁目

東陽九十三丁目

東陽九十四丁目

東陽九十五丁目

東陽九十六丁目

東陽九十七丁目

東陽九十八丁目

東陽九十九丁目

東陽一百丁

東陽一百一丁目

東陽一百二丁目

東陽一百三丁目

東陽一百四丁目

東陽一百五丁目

東陽一百六丁目

東陽一百七丁目

東陽一百八丁目

東陽一百九丁目

東陽二百丁

東陽二百一丁目

東陽二百二丁目

東陽二百三丁目

東陽二百四丁目

東陽二百五丁目

東陽二百六丁目

東陽二百七丁目

東陽二百八丁目

東陽二百九丁目

東陽三百丁

東陽三百一丁目

東陽三百二丁目

東陽三百三丁目

東陽三百四丁目

東陽三百五丁目

東陽三百六丁目

東陽三百七丁目

東陽三百八丁目

東陽三百九丁目

東陽四百丁

東陽四百一丁目

東陽四百二丁目

東陽四百三丁目

東陽四百四丁目

東陽四百五丁目

東陽四百六丁目

東陽四百七丁目

東陽四百八丁目

東陽四百九丁目

東陽五百丁

東陽五百一丁目

東陽五百二丁目

東陽五百三丁目

東陽五百四丁目

東陽五百五丁目

東陽五百六丁目

東陽五百七丁目

東陽五百八丁目

東陽五百九丁目

東陽六百丁

東陽六百一丁目

東陽六百二丁目

東陽六百三丁目

東陽六百四丁目

東陽六百五丁目

東陽六百六丁目

東陽六百七丁目

東陽六百八丁目

東陽六百九丁目

東陽七百丁

東陽七百一丁目

東陽七百二丁目

東陽七百三丁目

東陽七百四丁目

東陽七百五丁目

東陽七百六丁目

東陽七百七丁目

東陽七百八丁目

東陽七百九丁目

東陽八百丁

東陽八百一丁目

東陽八百二丁目

東陽八百三丁目

東陽八百四丁目

東陽八百五丁目

東陽八百六丁目

東陽八百七丁目

東陽八百八丁目

東陽八百九丁目

東陽九百丁

東陽九百一丁目

東陽九百二丁目

東陽九百三丁目

東陽九百四丁目

東陽九百五丁目

東陽九百六丁目

東陽九百七丁目

東陽九百八丁目

東陽九百九丁目

東陽一千丁

東陽一千一丁目

東陽一千二丁目

東陽一千三丁目

東陽一千四丁目

東陽一千五丁目

東陽一千六丁目

東陽一千七丁目

東陽一千八丁目

東陽一千九丁目

東陽二千丁

東陽二千一丁目

東陽二千二丁目

東陽二千三丁目

東陽二千四丁目

東陽二千五丁目

東陽二千六丁目

東陽二千七丁目

東陽二千八丁目

東陽二千九丁目

東陽三千丁

東陽三千一丁目

東陽三千二丁目

東陽三千三丁目

東陽三千四丁目

東陽三千五丁目

東陽三千六丁目

東陽三千七丁目

東陽三千八丁目

東陽三千九丁目

東陽四千丁

東陽四千一丁目

東陽四千二丁目

東陽四千三丁目

東陽四千四丁目

東陽四千五丁目

東陽四千六丁目

東陽四千七丁目

東陽四千八丁目

東陽四千九丁目

東陽五千丁

東陽五千一丁目

東陽五千二丁目

4 城東北部地区

(1) 地区特性

① 地域概況

令和6年1月1日現在、人口は128,010人、人口密度は266.1人/haです。

地区内には、旧中川、北十間川、豎川、小名木川といった河川が流れています。また、亀戸天神社等の集積した社寺、大規模な団地、都立亀戸中央公園、都立大島小松川公園、旧中川水辺公園を中心に、まとまったみどりが存在しています。

緑被率、緑視率は、ともに6地区中5番目となっています。

〈城東北部地区のみどりの現状〉

		江東区全域	城東北部地区
緑被率		21.01%	15.60% (6地区中5番目)
緑視率		17.2%	14.3% (6地区中5番目)
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	298箇所	63箇所
	面積	515.1ha	40.5ha
ポケットエコスペース		52箇所	14箇所
緑・自然の満足度		63.2%	58.7% (75人中44人)

② 地区の将来的な動向 (「江東区都市計画マスタープラン2022」地区別まちづくり方針におけるみどりの位置付け)

		みどりに関連する主な位置付け
拠点の方針	東大島地域核	・水辺と緑を中心としたにぎわい拠点の形成を目指し、既存の総合公園や旧中川・荒川等の河川に加え、整備が進められている都市計画公園等の豊かな水辺と緑を活用し、レクリエーション機能や地域交流機能を誘導します。
エリアまちづくりの方向性	亀戸二丁目周辺エリア	・豊かな水辺と緑を活用し、多くの人がにぎわう、また防災やスポーツにも資する滞留空間を創出する等、多様な活動を支えるまちづくりを目指します。
	大島三丁目周辺エリア	・大島緑道公園や亀出神社等の地域資源を活かした道路ネットワークを形成する等、回遊性の高いウォーカブルなまちづくりを目指します。
	大島四丁目周辺エリア	・オープンスペースや大島緑道公園等を活用し、南北を連続的に結ぶ快適な主要生活動線を整備する等、広域的で回遊性の高いネットワークの形成を目指します。
	旧中川沿い周辺エリア	・豊かな水辺と緑を、多様な人々のスポーツやアクティビティに活用する等、地域住民等の健康を促進するまちづくりを目指します。

※みどりと関連の深い拠点・エリアを抜粋

(2) 地区の方針

- ◆ 豊かな緑地やオープンスペースのある大規模な団地等も立地していることから、今後の建て替え等の際には、現在の緑地機能の維持や充実を図るため、事業者等と連携し、地区の貴重なみどりの保全・創出に努めていきます。
- ◆ 豊かな水辺や公園等を活かしたみどりのネットワークを形成し、ウォーキングやランニング、水辺のスポーツ等の場として活用を図り、健康増進・交流等を創出していきます。
- ◆ 縦横に流れる河川や大規模な公園等を活用し、環境、生物多様性、防災等をはじめとするみどりの多様な機能が発揮できるみどりのネットワークを形成していきます。

水辺のスポーツが身近に楽しめる魅力あるまち

亀戸二丁目周辺エリア
豊かな水辺と緑を活用し、多くの人でにぎわい、スポーツ等にも資する滞留空間を創出していきます。

**亀戸天神社等
社寺集積地**
社寺林等の歴史的な緑地を保全するとともに、周辺の市街地との一体的なみどりのあるまちなみを形成していきます。

旧中川沿い周辺エリア
豊かな水辺と緑を、多様な人々のスポーツやアクティビティに活用する等、地域住民等の健康を促進するまちづくりを進めていきます。
また、江戸時代の中川船番所の跡地に整備した旧中川・川の駅では、事業者等と連携して、水辺を活かしたにぎわいづくりを進めていきます。



旧中川
【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

都立亀戸中央公園・都立大島小松川公園
まとまりのある貴重なみどりとして、旧中川と一体的に活用し、レクリエーション等によるにぎわいづくりを進めます。



縦川河川敷公園
区民の広場としてスポーツやレクリエーションによるにぎわいづくりを進めていきます。

まとまったみどりやオープンスペースを持つ大規模な団地
住民や事業者と連携し、まとまりのある緑地の保全を働きかけていくとともに、大島六丁目団地で行われている「06 カフェ」等のオープンスペースを活かしたコミュニティづくりを進めていきます。

凡例

公共施設の緑化（屋上・壁面）	保護樹木・保護樹林	桜の見所	教育文化施設	公園・緑地
民間企業の緑化（屋上・壁面）	街路樹	紅葉の見所	官公庁施設	児童遊園
校庭芝生化	水辺・潮風の散歩道等		スポーツ・興行施設	河川・運河
ポケットエコスペース・ピオトープ	防災船着場		避難場所	
コミュニティガーデン				
農体験の場				
住宅団地のオープンスペース				

「江東区都市計画マスタープラン 2022」拠点の方針、エリアまちづくりの方向性

城東北部地区における取組方針図

5 城東南部地区

(1) 地区特性

① 地域概況

令和6年1月1日現在、人口は116,247人、人口密度は239.1人/haです。

地区内には、豊かな自然環境を有する荒川や仙台堀川公園といったまとまった貴重なみどりが 있습니다。また、明治後期から大規模工場が数多く立地し、昭和40年代以降、公的住宅団地へと変わりました。近年では、工場や倉庫等がマンションへ土地利用転換されています。

緑被率、緑視率は、ともに6地区中4番目となっています。

〈城東南部地区のみどりの現状〉

		江東区全域	城東南部地区
緑被率		21.01%	16.16% (6地区中4番目)
緑視率		17.2%	14.6% (6地区中4番目)
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	298箇所	65箇所
	面積	515.1ha	26.3ha
ポケットエコスペース		52箇所	12箇所
緑・自然の満足度		63.2%	64.7% (68人中44人)

② 地区の将来的な動向 (「江東区都市計画マスタープラン2022」地区別まちづくり方針におけるみどりの位置付け)

		みどりに関連する主な位置付け
拠点の方針	南砂都市核	・ 駅周辺の緑と臨海部の水辺と緑を活用し、道路ネットワークを補完する新設道路や快適で安全な歩行者空間・自転車空間を整備する等、身近に水辺と緑を感じられる広域的な交通ネットワークの形成を目指します。
エリアまちづくりの方向性	北砂六・七丁目周辺エリア	・ 周辺の水辺と緑を活かし、多世代が快適かつ健康的に暮らせる住環境の形成を目指します。
	東砂四・五丁目周辺エリア	・ 荒川・砂町水辺公園周辺では、国と連携して高規格堤防を整備する等、防災性の高いスポーツ利用も可能な水辺の形成を目指します。
	南砂五丁目周辺エリア	・ 仙台堀川公園の水辺と緑を活かし、自然を感じられる憩いとレクリエーションの空間づくりを進める等、快適性の高いゆとりある環境都市の形成を目指します。 ・ 生物多様性に資する仙台堀川公園の水辺と緑を保全する等、身近な自然と触れ合える環境共生のまちづくりを目指します。

※みどりと関連の深い拠点・エリアを抜粋

(2) 地区の方針

- ◆ マンション等の住居系用途への土地利用転換や豊かな緑地等を有する大規模団地等の建て替え等の際には、現在の緑地機能の維持や充実を図るため、事業者等と連携し、地区の貴重なみどりの保全・創出に努めていきます。
- ◆ 荒川・砂町水辺公園や仙台堀川公園等の身近な自然と触れ合えるみどりを活用し、スポーツ、レクリエーション、環境教育の場としての環境づくりを進めていきます。
- ◆ 木造住宅密集地域等では、公園や広場の新設や既存の公園の拡幅等と合わせて、建物の建て替えの際にオープンスペースの確保を進めることで、防災性を高める空地を確保していきます。

くらしにみどりが溶け込む触れ合いと活気のあるまち

北砂五丁目団地・南砂二丁目住宅

まとまりのある緑地の保全を働きかけていきます。

北砂三・四・五丁目地区

建築物の更新やまちづくりを契機としたオープンスペースを確保していきます。



城東区民農園

区民農園

城東区民農園と新たに整備した砂町区民農園では、貴重な農体験の場として快適な利用環境を整備していくとともに、地域のコミュニティづくりの場を形成していきます。



横十間川親水公園・仙台堀川公園・南砂緑道公園

特性を活かした多様なみどりを保全するとともに、ウォーキングやランニング、自然観察等の活動の場としての身近なみどりづくりを進めていきます。



仙台堀川公園【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

荒川・砂町水辺公園

荒川と一体となったみどりの動脈の形成を担うとともに、身近な自然に触れ合える環境づくり、水辺に沿ったウォーキングやランニング等を快適に行える環境づくりを推進していきます。

凡例

公共施設の緑化（屋上・壁面）	保護樹木・保護樹林	桜の見所	教育文化施設	公園・緑地
民間企業の緑化（屋上・壁面）	街路樹	紅葉の見所	官公庁施設	児童遊園
校庭芝生化	水辺・潮風の散歩道等		スポーツ・興行施設	河川・運河
ポケットエコスペース・ビオトープ	防災船着場		遊離場所	
コミュニティガーデン				
農体験の場				
住宅団地のオープンスペース				

城東南部地区における取組方針図

6 南部地区（南部地区西・南部地区東）

（１）地区特性

① 地域概況

令和 6 年 1 月 1 日現在、人口は 125,197 人、人口密度は 110.8 人/ha です。

東京湾に面し、地区内には運河が縦横に流れ、東京 2020 大会の会場が集積しています。また、工場や倉庫等が多く立地していましたが、土地利用転換に伴う再開発により、多くの公園、緑地等を確保し、みどりに囲まれた街区が整備されています。

緑被率は 6 地区中 2 番目、緑視率は 1 番目となっています。

〈南部地区のみどりの現状〉

		江東区全域	南部地区
緑被率		21.01%	21.55%（6 地区中 2 番目）
緑視率		17.2%	23.3%（6 地区中 1 番目）
公園 （児童遊園を含む）	箇所数	298 箇所	53 箇所
	面積	515.1ha	148.2ha
ポケットエコスペース		52 箇所	10 箇所
緑・自然の満足度		63.2%	64.0%（75 人中 48 人）

② 地区の将来的な動向（「江東区都市計画マスタープラン 2022」地区別まちづくり方針におけるみどりの位置付け）

		みどりに関連する主な位置付け
拠点の方針	豊洲都市核	・公園や潮風の散歩道等の水辺と緑を活かしたウォーカブルな空間の創出や舟運の活用により、にぎわいや回遊性のある拠点形成を目指します。
	有明都市核	・オリンピック・パラリンピックのレガシー等のスポーツ施設や観光施設と周辺の水辺空間を連携させ、広域的に人を呼び込む大規模な空間を創出する等、周辺の住環境の保全、調和を図りながら、スポーツ・レクリエーション等により魅力的なライフスタイルが楽しめるまちを目指します。
	潮見広域核	・水辺に囲まれた環境を活かし、親水性が高く連続性のあるオープンスペースの形成等、水辺に顔を向けたまちづくりを目指します。
	辰巳広域核	・オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用し、連続したウォーカブルな水辺空間を創出する等、スポーツの中心地として新たな伝統を育みます。
	新駅拠点 （（仮称）枝川駅）	・水辺に囲まれた環境を活かし、親水性が高く連続性のあるオープンスペースの形成等、水辺に顔を向けたまちづくりを目指します。
エリアまちづくりの方向性	豊洲四丁目エリア	・遊歩道や公園等のオープンスペースを活かし、連続した水辺ネットワークを形成する等、回遊性の高いまちづくりを目指します。
	豊洲六丁目周辺エリア	・豊洲ぐるり公園を活かし、他の臨海部につながる連続した水辺ネットワーク形成する等、回遊性の高いまちづくりを目指します。
	潮見二丁目周辺エリア	・旧渋沢邸や水辺に囲まれた立地等を活かし、オープンスペースを形成する等、区内外から多くの人が訪れる魅力あるまちづくりを進めます。

※みどりと関連の深い拠点・エリアを抜粋

（２）地区の方針

- ◆ 開発等のまちづくりと合わせて、豊かな水辺を活かした新たなみどりを創出していくとともに、マンション等が多く立地していることから、ベランダ緑化等を推進し、地区のみどりに対する愛着の醸成を図っていきます。
- ◆ 土地利用転換や再開発等により整備された公園、道路、民有地のみどりについては、事業者等と連携し、適切な維持管理を行っていきます。
- ◆ 公園、水辺、東京 2020 大会会場等を有効活用するとともに、民間活力を導入することで、みどりを活用したスポーツ・レクリエーション空間や連続したみどりのネットワーク等を形成し、交流やにぎわいの創出を図っていきます。

みどりをみんなで生み出し・育み・活かす 快適でにぎわいのあるまち

豊洲二・三丁目地内

開放的な公開空地と公共空間が一体となった良質な都市空間を形成していきます。

豊洲公園・都立春海橋公園

コミュニティガーデン活動との連携や地域住民や事業者が企画する公園のイベント開催等を通して、地域のコミュニティづくりを支援していきます。



春海橋公園

【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

豊洲六丁目エリア

豊洲ぐるり公園

事業者が企画するウォーキング・ランニングイベントや地域と連携した豊洲水彩まつり等、水辺を活かしたにぎわいづくりを進めていきます。

南部地区西



豊洲運河・東雲運河

水辺と一体となった緑化を進めるとともに、潮風の散歩道を活かした健康づくりを進めていきます。

温故創新の森 NOVARE

新たに ABINC ADVANCE 認定事業所の認証を受けた温故創新の森 NOVARE では、事業者と連携し、生物多様性に配慮した取組を進めていきます。

潮見広域核

えこつくる江東環境学習の機会づくりを積極的に進めていきます。

潮見二丁目周辺エリア

南部地区東

都立辰巳の森海浜公園

都立辰巳の森緑道公園 辰巳区民農園

辰巳広域核

東京 2020 大会会場等を活用し、連続したウォカブルな水辺空間を創出する等、スポーツの中心地としての新たな伝統を育みます。

有明都市核

東京 2020 大会会場や観光施設等と周辺の水辺空間を連携させ、広域的に人を呼び込む大規模な空間を創出する等、スポーツ・レクリエーション等により魅力的なライフスタイルが楽しめるまちづくりを進めていきます。

都会の農園バーベキュー広場

事業者とも連携しながら、農体験の場の充実や学校教育と連携した環境学習を進めていきます。



有明アリーナ

【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

凡例

公共施設の緑化（屋上・壁面）	街路樹	桜の見所	教育文化施設	公園・緑地
校庭芝生化	水辺・潮風の散歩道	紅葉の見所	官公庁施設	児童遊園
ポケットエコスペース・ピオトープ	防災船着場		スポーツ・興行施設	河川・運河
コミュニティガーデン			避難場所	
農体験の場				
住宅団地のオープンスペース				
東京2020大会競技会場				

「江東区都市計画マスタープラン 2022」拠点の方針、エリアまちづくりの方向性

南部地区（南部地区西・南部地区東）における取組方針図

7 湾岸地区

(1) 地区特性

① 地域概況

令和6年1月1日現在、人口は5,750人、人口密度は4.1人/haです。

東京湾、荒川に面しており、地区内には運河が縦横に流れています。また、東京2020大会の会場やごみの最終処分場を整備した都立夢の島公園、都立海の森公園、都立若洲海浜公園等のまとまったみどりが存在しています。

緑被率は6地区中1番目、緑視率は2番目となっています。

〈湾岸地区のみどりの現状〉

		江東区全域	湾岸地区
緑被率		21.01%	26.67% (6地区中1番目)
緑視率		17.2%	21.3% (6地区中2番目)
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	298箇所	16箇所
	面積	515.1ha	227.5ha
ポケットエコスペース		52箇所	1箇所
緑・自然の満足度		63.2%	42.9% (7人中3人)

② 地区の将来的な動向 (「江東区都市計画マスタープラン2022」地区別まちづくり方針におけるみどりの位置付け)

		みどりに関連する主な位置付け
拠点の方針	新木場・夢の島広域核	・グリーンインフラの考え方から既存の水辺空間を活用し、親水性の高い連続性のあるオープンスペースの形成や舟運の活性化、貯木場として利用されていた水面の新たな活用等、水辺を活かしたまちづくりを目指します。
	若洲交流拠点	・都立若洲海浜公園と都立海の森公園の連続性の活用や若洲公園でのPark-PFI導入、スポーツ・レジャー施設の相互連携等の区内外から人を呼び込む新たな取組により、一層のにぎわいや交流の創出を図ります。
	海の森交流拠点	・海の森では、都市近傍で豊かな自然を感じられるパークエリアを目指します。 ・海の森と一体となる中央防波堤埋立地では、人々が憩い、にぎわう新たな交流拠点を目指し、豊かな緑に囲まれ、水を身近に感じられる生物多様性に富んだダイナミックなパークゾーンの形成を誘導します。
	東雲広域核	・豊洲等との交通ネットワークと東雲周辺の水辺を活かし、緑化空間の連続性を創出する等、湾岸軸の形成に資する快適で交通利便性の高い都市づくりを目指します。
エリアまちづくりの方向性	夢の島二・三丁目周辺エリア	・大規模かつ様々な公園機能を有する都立夢の島公園と豊かな水辺を活用する等、あらゆる人がスポーツやレクリエーションを楽しみ、防災にも資するエリアの形成を目指します。
	新木場駅周辺エリア	・住宅地と離れた立地を活かし、公園等で屋外レジャー機能を充実させる等、都心部にいながら自然を感じられるまちづくりを目指します。
	若洲三丁目周辺エリア	・海の森等周辺のオリンピック・パラリンピックのレガシーや、スポーツ施設・レジャー施設の集積を活用する等、大規模なスポーツイベントの開催や、多くの区民がスポーツに親しめる拠点の形成を目指します。

※みどりと関連の深い拠点・エリアを抜粋

(2) 地区の方針

- ◆ 大規模な公園、水辺、東京2020大会会場等を有効活用するとともに、民間活力を導入することで、みどりを活用したスポーツ・レクリエーション空間、豊かな自然との触れ合いの場、連続したみどりのネットワーク等を形成し、交流やにぎわいの創出を図っていきます。
- ◆ 土地利用の転換も進んでいることから、今後とも開発等のまちづくりと合わせ、地域の特徴を活かした新たなみどりを創出していきます。

東京湾を望む壮大なみどりを活かし、 スポーツ・レクリエーションによる交流とにぎわいのあるまち

新砂二・三丁目地区

丸八通りと塩浜通りをつなぐ、新たな道路の整備により、連続性のある水とみどりのネットワークの形成を進めていきます。

新砂干潟

こどもたちを対象とした生きものの観察会等を実施し、みどりに関する知識や関心を高めていきます。

下水道局砂町水再生センター

水辺から飛来してくる生物にとって貴重な生育環境であるため、地区の生物多様性の保全に向けて東京都と情報共有をしていきます。



新砂干潟

新木場駅周辺

公園等で屋外レジャー機能を充実させる等、都心部にいながら自然を感じられるまちづくりを進めていきます。また、駅前広場は、事業者と連携した植栽地の維持管理により、良質な都市空間を形成していきます。

東雲広域核

新木場・夢の島広域核

夢の島区民農園

曙北運河

明治通り

夢の島二・三丁目周辺エリア

都立新木場緑道公園

都立夢の島公園等

まとまったみどりを有する都立夢の島公園、都立夢の島熱帯植物館、都立夢の島緑道公園と豊かな水辺を活用し、スポーツやレクリエーションによる交流やにぎわいづくりを進めていきます。

新木場駅周辺エリア

若洲三丁目周辺エリア

都立海の森公園



海の森

【写真提供：一般社団法人江東区観光協会】

海の森交流拠点

都市近傍で豊かな自然を感じられるパークエリアを目指します。また、豊かなみどりを身近に感じられる生物多様性に富んだダイナミックなパークゾーンの形成を誘導していきます。

若洲交流拠点

東京ゲートブリッジや水辺と緑を活用し、湾岸軸を形成する新木場・夢の島・海の森について、連続性のある景観形成により魅力的な拠点づくりを進めていきます。

凡例

- | | | | | |
|------------------|-----------|------|-----------|-------|
| 民間企業の緑化（屋上・壁面） | 街路樹 | 桜の見所 | 教育文化施設 | 公園・緑地 |
| ポケットエコスペース・ピオトープ | 水辺・潮風の散歩道 | | 官公庁施設 | 児童遊園 |
| 農体験の場 | 防災船着場 | | スポーツ・興行施設 | 河川・運河 |
| 東京2020大会競技会場 | | | | |
- 「江東区都市計画マスタープラン 2022」拠点の方針、エリアまちづくりの方向性

湾岸地区における取組方針図

